

3月の園便り



21年 新潟青陵幼稚園 加藤由美子 *くんとはははははは*

「近年、学校を、子どもたちが「教科を学習する場」という視点を超えて「経験の空間としての学校」という提案がなされている、長い生涯の土台を築く児童期から思春期青年期にかけてこのような視点が大切であることは言うまでもなく、「学校は経験の空間であるべきである」ということが今ますます重要になってきているのではないかな。ドイツでは1970年代から学校を「経験の空間として」捉えなおそうとする動きがでてきている。それは高度に情報化した消費社会が子どもの生活世界そのものの性格を大きく変容させてきて、それへの十分な対応策が必要とされている事、子どもたちが自然や事物と直接に関わる場がもちにくくなっていて、本来は五感を通してしか感得できない様々なことが子どもの世界から消滅しつつある、という事情が背景にある。——」（独立学園、独立時法より）

青陵幼稚園の教育は、まさに子どもたちの「経験の空間」として存在しています。子どもたちは日々身の周りのさまざまな事象に興味を抱き物事の仕組みを知り、自然を知り人間関係を作り——等々さまざまな経験をしています。

「みて～ダイヤモンド！」と田植え用の箱から取った氷を大事そうに手のひらに乗せて袋をもらいにきます。「これおみやげ！」と袋に入れて保育室に行く赤ばらさん、氷に感動して冷たい水に手を入れて氷を取ろうとする子どもたちの思い、「ダイヤ」という表現からは、子どもたちが本当に貴重なものとして感じていることが分かります。3歳児さんの驚くほどの感性！こどもは本来、神秘さや不思議さに感動する心は持っているのだと、3歳児さんを見るといつも思います。ちいさな子どもたちはまっすぐにその感性を表現してくれます。白ばらさんも手袋のまま氷を取るのに一生懸命、ぬれちゃうよという、「この手袋は大丈夫なんだよ！」と言いながら氷をとって、「でもこれお部屋に持っていけないからね」と言いながらポンと地面の上に投げて、砕け散る氷に「お！！」と感動。青ばらさんは、花壇の花を踏み潰さないように気をつけながら、縁石に足をかけて体をいっぱい伸ばして氷を取ります。氷が届かない所があると手で池の水を動かすのです。大きいままの氷を取りたい時には、そっとそっと割れないように気をつけています。私はこんなに一生懸命に取った氷なのに——とつい思ってしまうのですが、子どもたちは取った氷を地面に投げたり足で踏んでみたり、氷が割れる様子をみて「ガラスみたいだ」ときらきらしている氷の破片を見ている。大人とは違った興味関心を持って事物と向き合っています。こうして子どもたちは、自ら意欲（意志）を持って一つひとつ自分で体験して身の周りの物事を知り確かめ学んでいくのです。

21年3月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	日				
2	月	○	2:00		
3	火	○	2:00		新入園児さんのお楽しみ会です。在園児さんが歌を歌ったり一緒に手遊びをしたりします。
4	水	×	11:30		誕生会です。3月生まれさんの保護者の方と一緒に祝いましょう。
5	木	○	2:00		
6	金	○	2:00		
7	土				第4土曜日振替休日
8	日				
9	月	○	2:00		
10	火	○	2:00		
11	水	○	2:00		白ばらさん赤ばらがさんがじゃがいもの苗を植えに行きます。
12	木	○	2:00		
13	金	○	2:00		
14	土				第2土曜日 白ばらさん、赤ばらさんはお休みです。青ばら保護者の方が主催する”卒園を祝う会”が行われます。
15	日				
16	月	○	2:00		
17	火	○	2:00		青ばらさんおめでとうの会を行います。青ばらさんにプレゼントをしたり、一緒に給食を食べたりしてお祝いします。
18	水	×	11:30		午前保育です。帰りの時間が早いです。よろしくお願いいたします。
19	木	×	11:30		第3学期終業式です。
20	金				第42回修了式を行ないます。白ばら赤ばらさんはお休みです。
21	土				振替休日
22	日				
23	月				春休み
24	火				
25	水				
26	木				
27	金				
28	土				
29	日				
30	月				
31	火				